

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回8月のてがたんは、8月9日(土)で、「手賀沼の魚」がテーマです。手賀沼の淡水魚を実際に捕まえて観察します。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、8月2日(土)の9:30からです。
よろしくお願いたします。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→市民農園フジ棚→けやき広場(解散)
- 観察日時と天気：2014年7月12日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：16人(大人14人、こども2人)
- 市民スタッフ：8人 (竹本周平、伊東茂子、大嶽若緒、木村稔、小泉伸夫、染谷迪夫、松村定雄、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2人(小田谷嘉弥・染谷実紀)

観察した生き物の記録

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ/タカ科：トビ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声のみ)/エナガ科：エナガ/ヨシキリ科：オオヨシキリ(声のみ)/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ(声のみ)/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ
外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【哺乳類・両生爬虫類】

ヒミズ(巣穴)、ニホンアマガエル

【昆虫】

チョウ目：クロメンガタスズメ(クサギにいた)、キロスズメ(ヤマノイモにいた)、ルリシジミ、ゴマダラチョウ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ
トンボ目：オニヤンマ、コシアキトンボ、チョウトンボ、ノシメトンボ、アオモンイトトンボ
コウチュウ目：ナミガタチビタマムシ、アオドウガネ、マメコガネ、カナブン、ラミーカミキリ、ゴマダラカミキリ、シラホシテントウ、ヒメカメノコテントウ、ナミテントウ
カメムシ目：マルカメムシ、ヘリカメムシの仲間、ハゴロモの仲間の幼虫

【クモ】

アズチグモ、アサヒエビグモ、ゴミグモ、クサグモの仲間、オニグモ、ジョロウグモ、サツマノミダマシ、ナガコガネグモ、アシナガグモの仲間、ミスジハエトリ

【花】

オオニワゼキショウ、ニワゼキショウ、カタバミ、アカバナユウゲショウ、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、ヘクソカズラ、ネジバナ、センリョウ、マンリョウ、コセンダングサ、スカシタゴボウ、ハルジオン、ブタナ、セイヨウタンポポ、ヤブカラシ

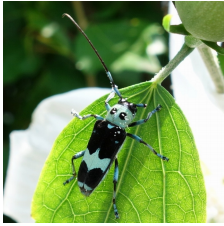
観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「寄生・共生する生き物」でした。植物と菌や昆虫を中心に、さまざまな生き物の寄生・共生の関係を観察することができました。



今月の案内人 竹本周平さん



①背中に花粉が付いていたラミーカミキリ



②クズの葉にできたタマバエの虫こぶ



③クサギについていたクロメンガタスズメの幼虫



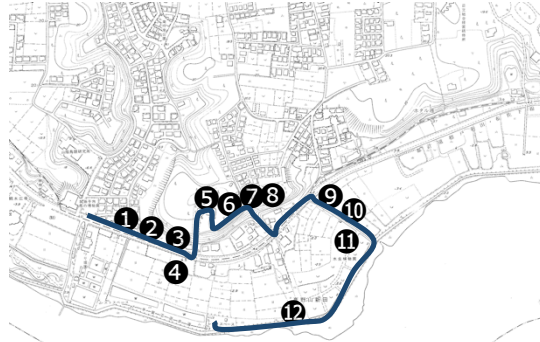
⑤香取神社の境内で見つけたヒメズの巣穴



⑥エノキの葉の裏に止まっていたゴマダラチョウ



④クスノキの葉には、さまざまな種類のダニが暮らしていて、クスノキとはそれぞれ複雑な共生関係にあります。



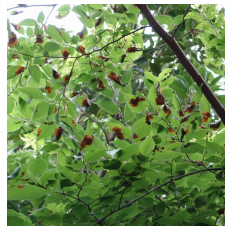
歩いたルートと観察した生き物



⑩シロツメクサなどマメ科の植物には、根粒菌という細菌が共生して、窒素を植物に利用しやすい形にしています。



⑦葉の中に寄生していたナミガタチピタマムシ



⑧ナミガタチピタマムシに寄生されたムクノキ



⑨草地にいたオンブバッタの幼虫



⑪未熟なハゼの実に似た色のサツマノミダマシ



⑫ヤマノイモについていたキイロスズメの幼虫

今月の鳥 鳥の寄生と共生

鳥類の寄生と共生関係について様々な例を紹介しました。ハジラミは、鳥の羽毛のケラチンというたんぱく質を栄養にしている寄生者です。鳥にとっては寄生されると羽が傷んで迷惑なので、羽づくろいによって落そうとします。落とされると死んでしまうので、ハジラミは体の形を適応させています。たとえば、風切羽につくハジラミは、羽枝(うし)の間に体をすべり込ませて鳥のくちばしから逃れます。食べる羽毛の部位や寄生する鳥の種によって、ハジラミの種も違ってきます。ハジラミなどの寄生虫は、鳥という「島」に住んでいる生き物なのです。



ノスリに寄生していた形の異なる2種のハジラミの間

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。